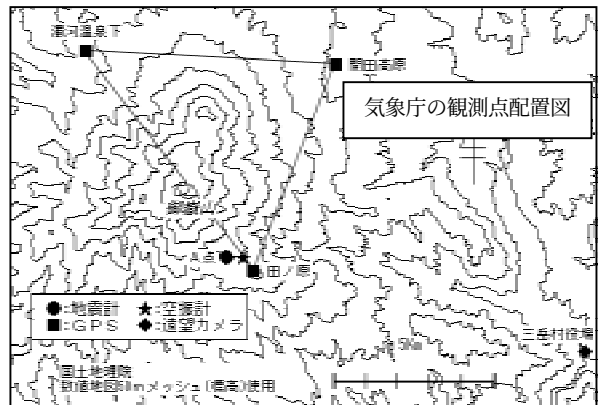


# 御 嶽 山

## ○概況（平成 16 年 8 月）

火山活動は、落ち着いた状態が続きました。

地震活動、噴煙活動、地殻変動に異常な変化はありませんでした。



## ○地震活動及び微動の発生状況

御嶽山では 1 日当たりの地震回数が 10 回未満と少ない状態で推移しました（表 1）。また、火山性微動は観測されませんでした。南側山麓において開田村で震度 1 を観測した地震が 1 回発生しましたが、この地震は 1984 年長野県西部地震の余震域で発生したものであり、火山活動と直接の関連はないと考えられます。

表 1 御嶽山 火山性地震日別回数表

|    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 上旬 | 1日  | 2日  | 3日  | 4日  | 5日  | 6日  | 7日  | 8日  | 9日  | 10日 |     | 旬計 |    |
|    | 1   | 1   | 2   | 7   | 5   | 8   | 4   | 5   | 0   | 1   |     | 34 |    |
| 中旬 | 11日 | 12日 | 13日 | 14日 | 15日 | 16日 | 17日 | 18日 | 19日 | 20日 |     | 旬計 |    |
|    | 3   | 5   | 2   | 2   | 1   | 1   | 1   | 0   | 0   | 4   |     | 19 |    |
| 下旬 | 21日 | 22日 | 23日 | 24日 | 25日 | 26日 | 27日 | 28日 | 29日 | 30日 | 31日 | 旬計 | 月計 |
|    | 0   | 5   | 1   | 9   | 1   | 4   | 1   | 3   | 0   | 2   | 1   | 27 | 80 |

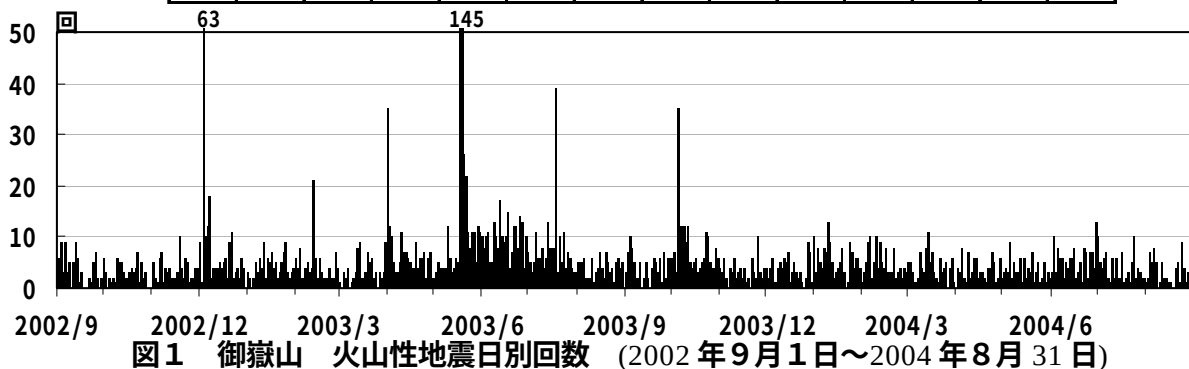


図 1 御嶽山 火山性地震日別回数（2002 年 9 月 1 日～2004 年 8 月 31 日）

## ○噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、噴気は観測されませんでした。

## ○地殻変動の状況

G P S 連続観測では、火山活動によるとみられる変化はありませんでした（図 2）。また、8 月 20～23 日にかけて行った G P S 繰り返し観測では、昨年 8 月に行った観測結果と比較して、火山活動によるとみられる有意な地殻変動は確認されませんでした。

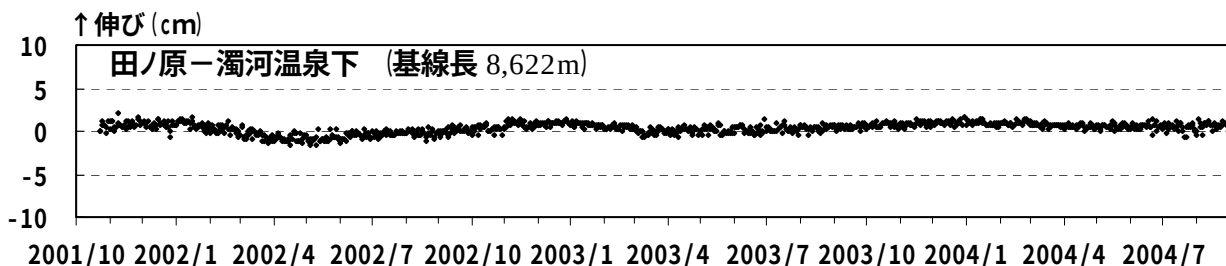


図 2 御嶽山 GPS 観測結果(基線長変化)（2001 年 10 月 23 日～2004 年 8 月 31 日）

その他の基線でも火山活動によるとみられる変化は観測されていない

## ○調査観測

2004年8月20日～23日に調査観測を行いました。

## ・噴気地帯の状況

8月21日および22日に、御嶽山王滝頂上噴気地帯の噴気温度観測および地獄谷噴気地帯の遠望観測を実施しました。噴気活動は、2003年8月に行った前回の観測時と比較して、S-1噴気孔およびS-3噴気孔の噴気温度が低下しており、熱異常域が縮小していました（表2、図4～6）。



図3 御嶽山 噴気地帯分布図

表2 噴気地帯の状況

| 観測地点             | 噴気状況                            | その他                                |
|------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| 王滝頂上<br>(S-1)    | 噴気孔は1ヶ所で弱い噴気を確認。従来の熱異常域が縮小していた。 | 弱い硫黄臭あり。噴気孔周辺に硫黄昇華物付着。             |
| 王滝頂上<br>(S-2)    | 噴気は確認できず。                       | なし                                 |
| 王滝頂上<br>(S-3)    | 大きな噴気音を伴いながら数十m程度の高さまで達していた。    | 強い硫黄臭あり。噴気孔周辺に硫黄昇華物付着。熱異常域は縮小していた。 |
| 地獄谷<br>(S-4～S-6) | 数十m程度の高さまで達していた。                | 奥の院および剣が峰からの遠望観測                   |

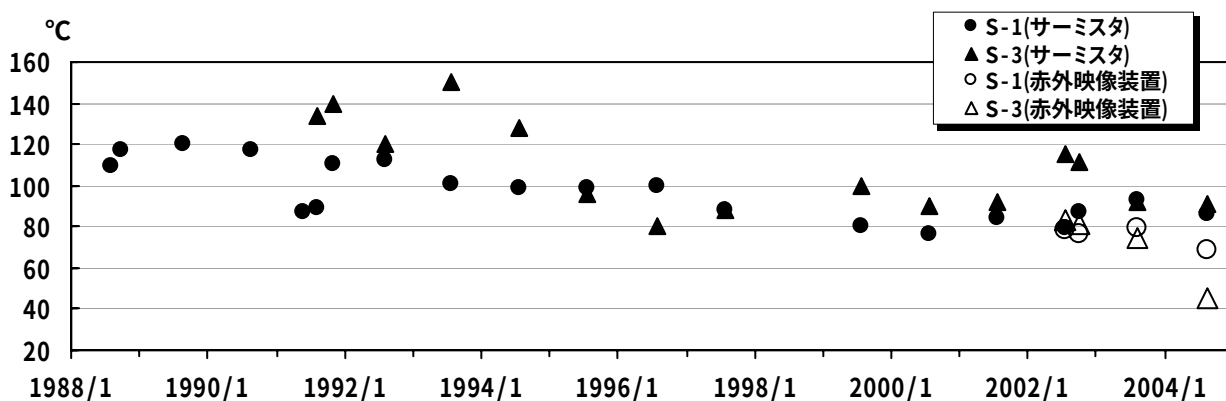
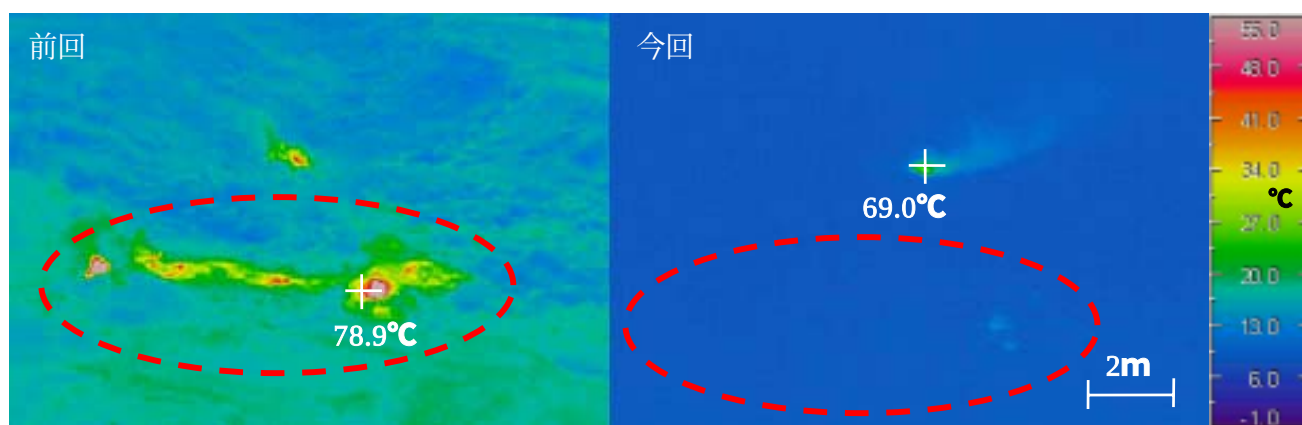
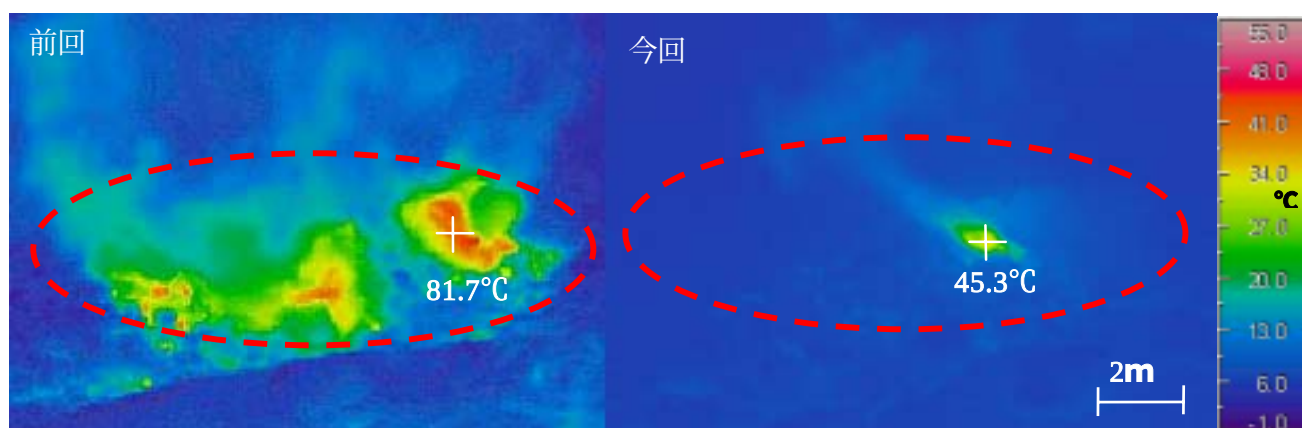


図4 御嶽山 王滝頂上噴気孔 最高噴気温度（1998年8月～2004年8月）

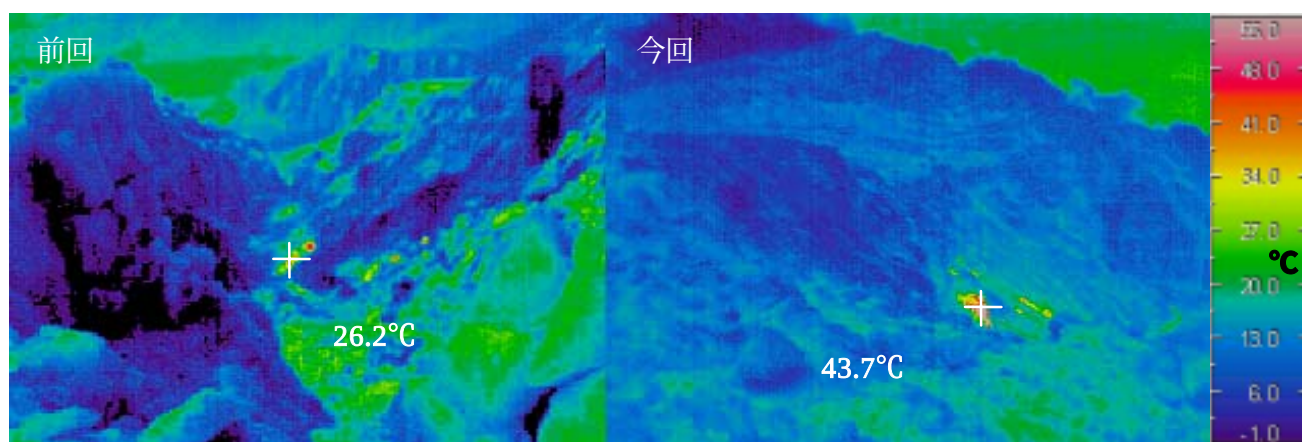
＊2002年7月以降はサーミスタ温度計、熱赤外映像装置の両方の測定値を表示



S-1 噴気地帯



S-3 噴気地帯



剣ヶ峰から観測した地獄谷(S-4～S-6)噴気地帯（S-4～S-6 噴気地帯は直接見えない）

図5 熱赤外映像観測装置による各噴気地帯の地表面温度分布（温度は最高値）

左：2003 年 8 月 6 日の結果 右：2004 年 8 月 21 日、22 日の結果

赤点線内は同一の領域を示す。

\*S-1 および S-3 の噴気地帯において、赤点線内の熱異常域が昨年と比較して縮小している。